

釧路の研究活動

研修部長 鶴居村立下幌呂小学校

校長 荻原 崇弘

1. はじめに

釧路校長会では、平成20年度より研究主題「心豊かに学び、たくましく生きる力の育成を目指す学校教育」を設定し、1年次を「基礎的」、2年次を「実践的」、3年次を「総括的」研究の段階と位置付け、平成22年度までの3か年でまとめをすることができた。その後平成23年度には道小研釧路・弟子屈大会、今年度には道中研釧路・弟子屈大会を主管し、この2年間は研究協議会を休止している。平成24年度はその狭間にあり若干の変更と試行を加え研究協議会を実施した。



釧路校長会としての研修活動は、次年度以降の研究主題や研究内容等の設定と釧路校長会研究協議会の企画・運営、道小分科会提言への取組が中心であった。さらに各町村校長会での独自の課題解決に向けた研究・研修会を開催するなどして、校長としての資質や指導力の向上に努めている。

2. 研修推進計画

(1) 活動の重点

- ①学習指導要領の趣旨を生かした「創意ある学校経営」に資する研修に努める。
- ②時代の要請に応える研修の充実のため、組織的研修体制の推進に努める。
- ③校長としての自己研鑽と教職員の力量向上に努める。
- ④道中研釧路・弟子屈大会の実行委員会研究部会への協力に努める。
- ⑤将来を見通した校長研究協議会の推進計画の立案に努める。
- ⑥道小及び全連小提言に向けた資料の作成に努める。

(2) 活動・研究内容

- ①平成26年度の研究協議会開催に向け、研究主題や研究協議会の方向性を検討するとともに、研究がより一層深められる内容や日程等の検討を推進する。
- ②道小研究大会提言「現職教育」に向け特別委員会を設置し、提言に向けた取組を組織的に推進する。
- ③各種研究大会（道小・道中・全連小・全日中）への積極的参加を推進する。
- ④道中研釧路・弟子屈大会の開催に向け、主管校長会として実行委員会研究部活動を平成23年度の道小研釧路・弟子屈大会の開催経験を生かしながら推進する。

(3) 研究組織

- ①研修部会～研修部（担当役員3名、部長、副部長2名）と町村研修部長7名
- ②特別委員会～道小平成26年度提言準備・資料作成及び平成27年度全連小提言準備

③道中研研究部～釧路・弟子屈大会に向け研修部会員に若干名を加えて組織

3. 研修推進の概要

(1) 釧路校長会研究協議会の企画運営

次年度開催の研究協議会開催に向け、これまでの研究を踏まえ研究主題を「釧路の風土で豊かに学び、生きる力の育成を目指す学校教育」に改め、テーマに基づく実践を重ねその成果を学校経営に生かし、学校力の向上と信頼される学校づくりを推進する。

また、研究推進にあたり「学校運営の改善」と「教職員の育成」の二つの視点から、学校経営及び日常の教育活動を通して研修と実践を深めていく。特に分科会協議の充実に向けては、分科会編成やグループ討議の活用、研究の視点の明確化等、より活発で深まりのある協議となるよう工夫を図っていく。

さらに、本研究を3か年継続研究とし、各町村校長会における実践事例に学び、研究協議を通して、相互の職能の向上を図っていくこととする。

(2) 道小研究大会提言特別委員会

平成26・27年度道小研大会、第7分科会「現職教育」の提言に向け特別委員会を設置し、教員の資質の向上、学校力向上のためのミドルリーダーの育成の視点から、提言の概要等について年度内にまとめる予定である。

加えて、次年度には平成27年度全連小提言割り当ての予定があり、道小提言と並行して全連小提言特別委員会を組織しなければならない。研修部を中心に釧路校長会の総力を挙げて推進していく必要がある。

(3) 各種研究大会への積極的参加

①道小研渡島・北斗大会(9/13～14) 17名参加

②全連小三重大会(10/17～18) 2名参加

③全日中福井大会(10/24～25) 2名参加

④道中研釧路・弟子屈大会(10/4～5)

主管校長会として、企画・運営に小学校長も積極的に関わった。また大会では、文部科学省大臣官房審議官 義本 博司氏による講話、猛禽類医学研究所代表・獣医師、齊藤慶輔氏による記念講演等に参加し研修を深めた。

4. おわりに

釧路校長会は、平成23年度の第54回道小研釧路・弟子屈大会、平成25年度の第56回道中研釧路・弟子屈大会の開催と、2度にわたる全道規模の研究大会を運営・参加する機会に恵まれた。昨年度は、全道大会の狭間の年度に開催した釧路校長会研究協議会において、とりわけ分科会の充実のための工夫改善を図り、その成果と課題を明らかにしてきた。これらの貴重な経験から、「分科会の充実」こそが私たちの研修・研究推進に最も有効な手法の一つであると実感したところである。

また、本校長会の会員数は、小・中学校合わせて55名と決して多くなく、今後とも統廃合等で減少の傾向にあり、しかもここ数年で校長の大幅な交替期を迎えることとなる。

このような中、次年度に向けては、分科会の充実のための具体策の検討と実施、研究推進及び提言の質的向上を目指し、一層組織的、計画的な研修・研究の推進と、個々の校長の力量はもとより釧路校長会の組織としての力量の向上が急務であると考えている。